# 玉置妙憂先生講演会・しんらん教室のご案内

**日時**　**１０月２０日（日）**　・午前１０時～１２時　（お勤め、お話）
・午後　１時～　２時　（座談）
※申し込み不要、途中退場可

**会場**　真勝寺本堂
**会費**　無料
**対象**　どなたもご参加ください（お檀家以外の方もお気軽に）
**講題**　「養老指南塾」
－　時間軸で見る死、介護から看取りの心構え、日々の生活でのお寺の活用術（その１）－
**講師**　**玉置　妙憂　先生**　（東京）

写真：講師の玉置先生

〔講師紹介〕
榎本クリニック看護師。高野山真言宗僧侶。
元国際医療福祉大学三田病院教育師長、看護管理学修士、医療政策学博士課程満期修了（国際医療福祉大学）、認定看護管理者（セカンドレベル）、介護支援専門員、臨床宗教師、スピリチュアルケア師。二児の母。東京都江東区生まれ。
専修大学法学部を卒業後、法律事務所で働きはじめる。
生まれた長男が重度のアレルギー症状をもっていたことをきっかけに、「息子専属の看護師になろう」と決意。国立東京病院附属看護学校で学び、看護師、看護教員の免許を取得。看護師として病院で働きはじめる。
その後、看護学校で教鞭をとる最中に、カメラマンだった夫のがんが再発。夫は「がんを積極的に治療しない」方針をかため、自宅での介護生活をスタート。最愛の夫を“自然死”で看取ることになるが、その死にざまがあまりに美しかったことから開眼。家族と職場に出家を宣言し、高野山真言宗にて学んで僧籍を修得。
現役の看護師として勤めるかたわら、患者本人や家族、医療と介護に関わる多くの人々の心を穏やかにするべく、院外でのスピリチュアルケア活動を続ける。さらに、講演会やシンポジウムの開催、子どもが“親の介護と看取り”について学ぶ「養老指南塾」の代表を務めるなど、幅広く活動する。
（講師著書『まずは、あなたのコップを満たしましょう』飛鳥新社より引用）

〔お寺の副住職から〕
私事で恐縮ですが３年半前に癌を罹患し延命してもらいましたが、それ以来、“再発”や“死”についての漠然とした不安がいつも頭をよぎっています。
現代医学の延命至上主義や“自然死”を知らない医療従事者の増加とあわせて、１９７０年以降“死を迎える場”が家から病院に代わったことなどもあり、老病死がタブー視される文化に現代人の多くが生きているとも言われます。義務教育の現場でも“老病死”について正しく学ぶ機会は乏しい、または皆無かと思われます。私自身もそのような環境で生きて来た者の一人です。
そしていつしか老病死が人生の敗北や絶望として捉えられ、一方で医療技術の進歩はあたかも不老不死を実現してくれるかのごとくの幻想となってきているように感じます。
必ず平等に訪れる“老・病・死”の人生の課題は、医療、福祉、仏教に共通の課題です。
玉置先生のお話を通じ、“必ずわたし自身と近しい人にも訪れる老病死を改めて見つめるご縁”とさせていただきたいと思います。そして、命の無常を習い、浄土往生の死生観と向き合う機会として参りたいと思います。
医療、福祉関係の方のご参加を歓迎致します。スピリチュアルな課題として共に学んでみませんか。当日、檀家への勧誘行為や信仰の押しつけ、名簿の記入は行いません。
尚１３時からの座談会も是非ご活用ください。

【お問い合わせ】真宗大谷派　自然山　真勝寺
静岡市 葵区 長沼 ２－１８－２３　☎054-261-3328　FAX054-261-2970
Ｅメール：makoto0100@mac.com　（担当：副住職　一郷真）

※ 「しんらん教室」とは、拙寺に於いて毎月開催される仏法聴聞を中心とした集まり（同朋会）です。誰もが参加でき、講演を聴くだけでなく講師を交えての質疑応答や人生の悩み等を吐露する時間も大切にしています。毎月、全国各地から講師をお招きし、檀家様や有縁の方々とこの場を大切にして来ています。どなたもご参加ください。

※ 「駐車場」はございますが、複数で来られる場合は乗り合わせて下さいますようご協力をお願いいたします。満車の際はお寺までご連絡ください。

※ １３時からの座談にご参加の方は、今年から始まりました“おむすびプロジェクト”（おむすび２個とお味噌汁のセットで￥３００）をご利用いただくか各自昼食をご用意ください。座談に参加されない方もお寺でお昼ご飯をお召し上がりいただけます。是非ご利用ください。